



不登校支援を含む 多様な学びの場について

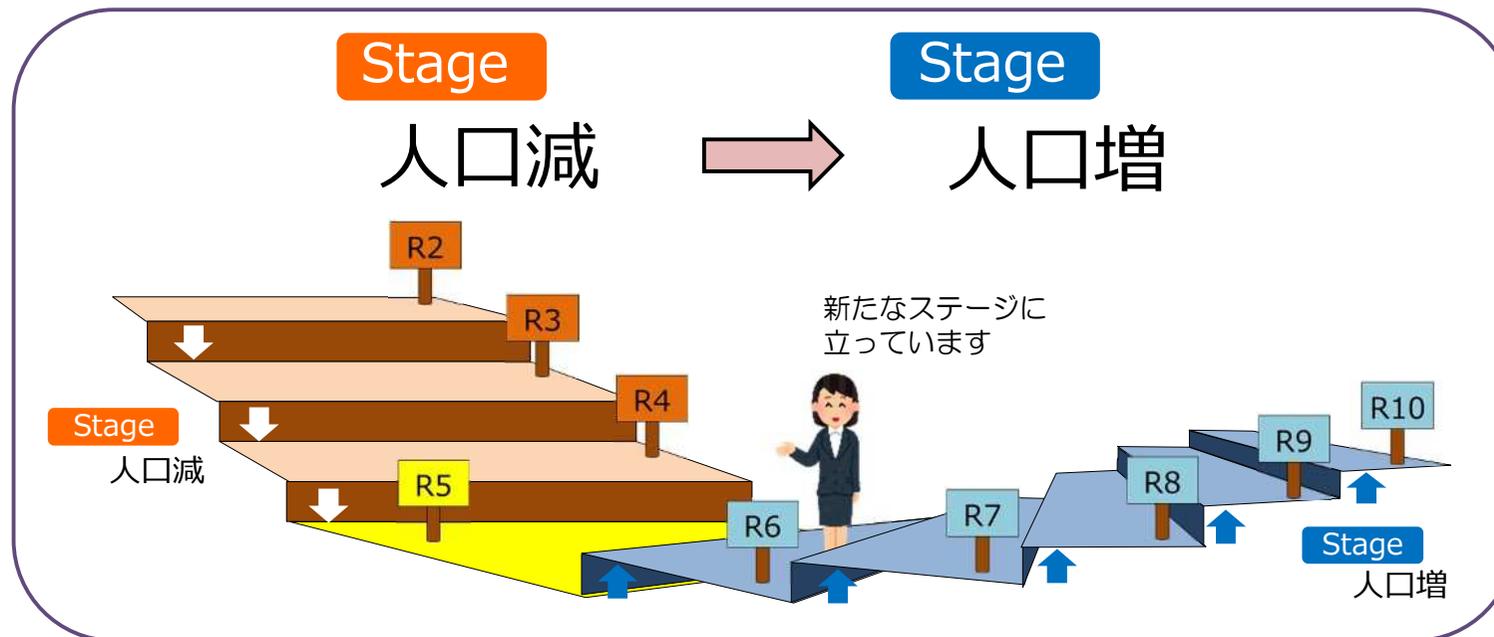
～人口増ステージにおける児童生徒の居場所づくり～

令和6年8月
都城市教育委員会

1 市民の居場所づくりという視点

人口減少から人口増加へ！総合教育会議にて協議検討

人口増 × 市民の居場所づくり

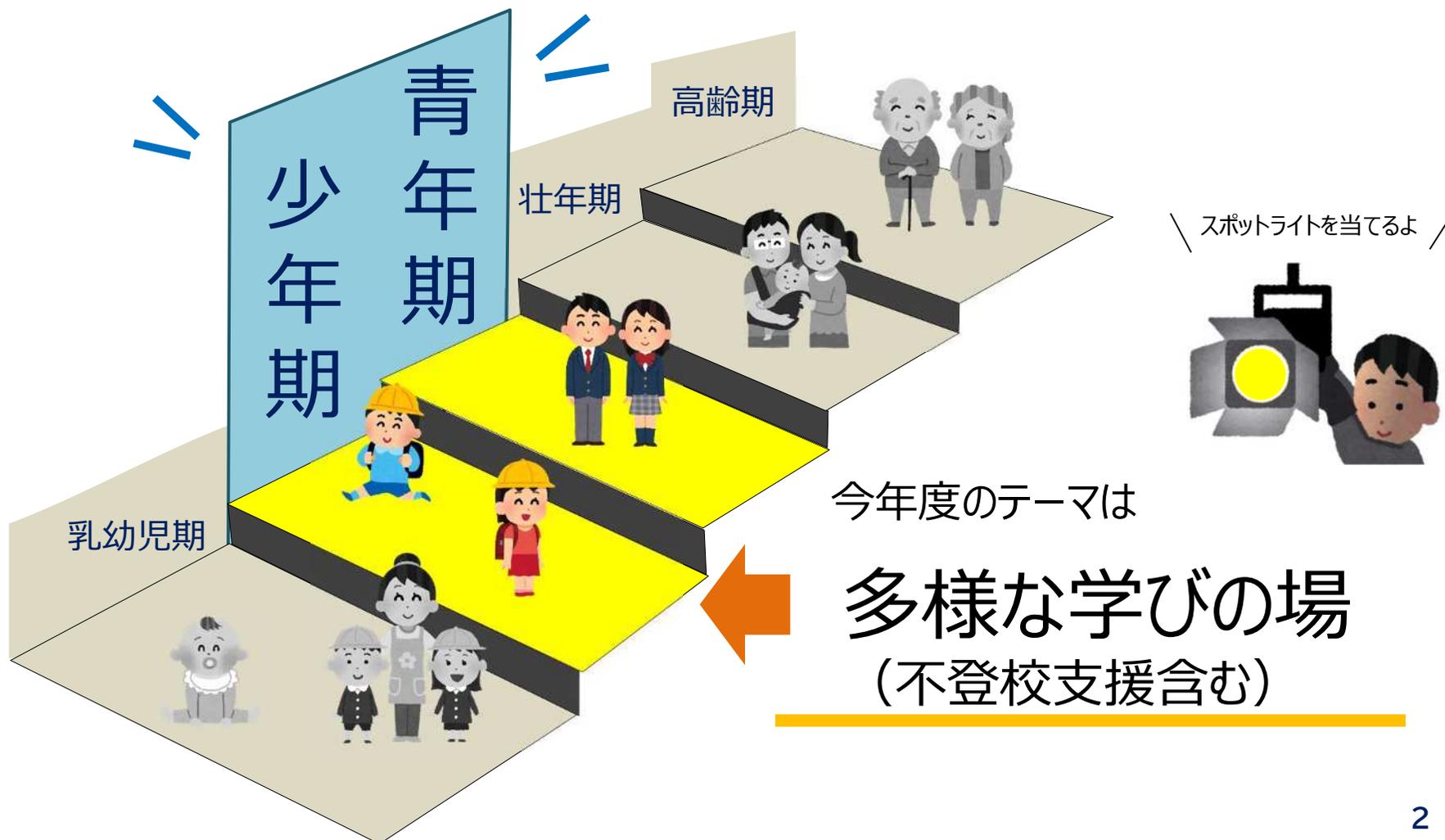


学校・地域など、様々な場面において、
ハード・ソフト両面の充実を図っていく

人口増ステージにおいて
必要な施策を！

2 令和6年度総合教育会議のテーマ

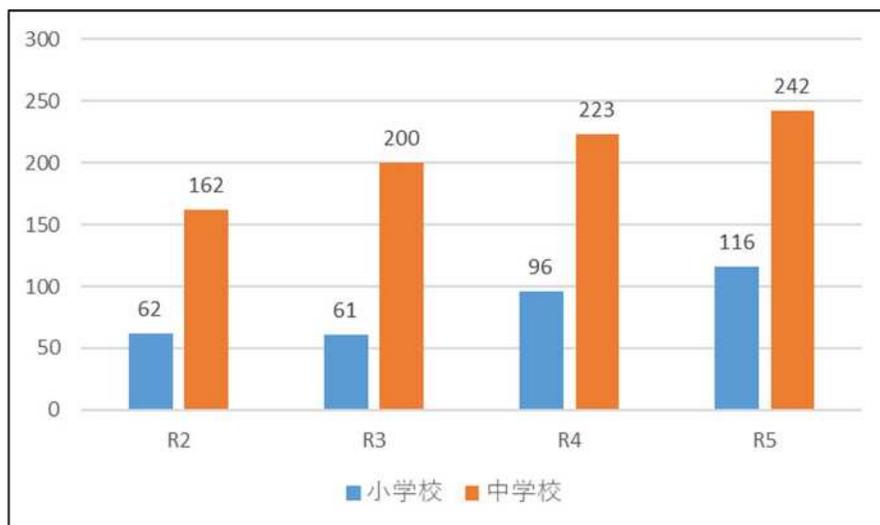
市民のライフステージから見る市民の居場所づくり



3 不登校の現状について

本市における不登校及び不登校傾向の現状と推移

● 令和5年度の不登校及び不登校傾向の児童生徒数



	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
小学校	62	61	96	116
中学校	162	200	223	242
合計	224	261	319	358

* 各年度3月時点

* 各年度の全児童生徒数に占める割合

小学校	0.7%	0.7%	1.0%	1.3%
中学校	3.6%	4.3%	4.8%	5.3%
合計	1.6%	1.9%	2.3%	2.6%

令和5年度

小学校 116名

中学校 242名

合計 358名

増加傾向であり、毎年度
過去最多人数を更新

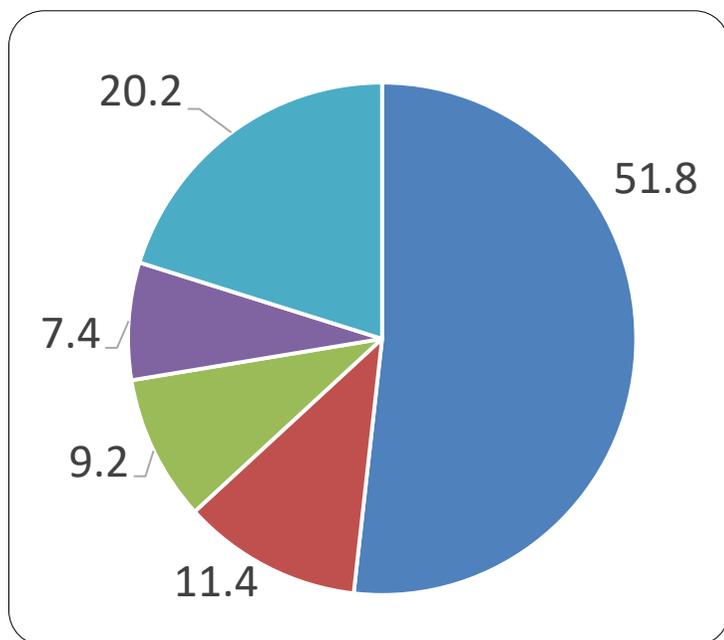
4 不登校の要因

文部科学省による調査の結果

- 【教員対象】令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

令和5年10月4日

文部科学省初等中等教育局児童生徒課



主な要因	不登校児童生徒に占める割合
1 無気力・不安	51.8%
2 生活リズムの乱れ、あそび、非行	11.4%
3 いじめを除く友人関係をめぐる問題	9.2%
4 親子の関わり方	7.4%
5 上記以外	20.2%

教員対象の調査による不登校の主な要因は、

「無気力・不安」の割合が高いという結果

5 不登校の要因分析調査（文科省）

国による要因分析（教員と児童生徒の回答比較）

- 令和6年3月公表 文部科学省委託事業 不登校の要因分析に関する調査研究報告書

公益社団法人 子どもの発達化学研究所

浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター

調査の対象

協力教育委員会	大阪府吹田市、広島県府中市、宮崎県延岡市、山梨県
調査対象者	令和4年度に小学3年生から高校1年生（中3を除く）であった児童生徒（19,005名） その保護者（12,140名）当時の担任教師等（児童生徒24,943名分）

主な調査内容

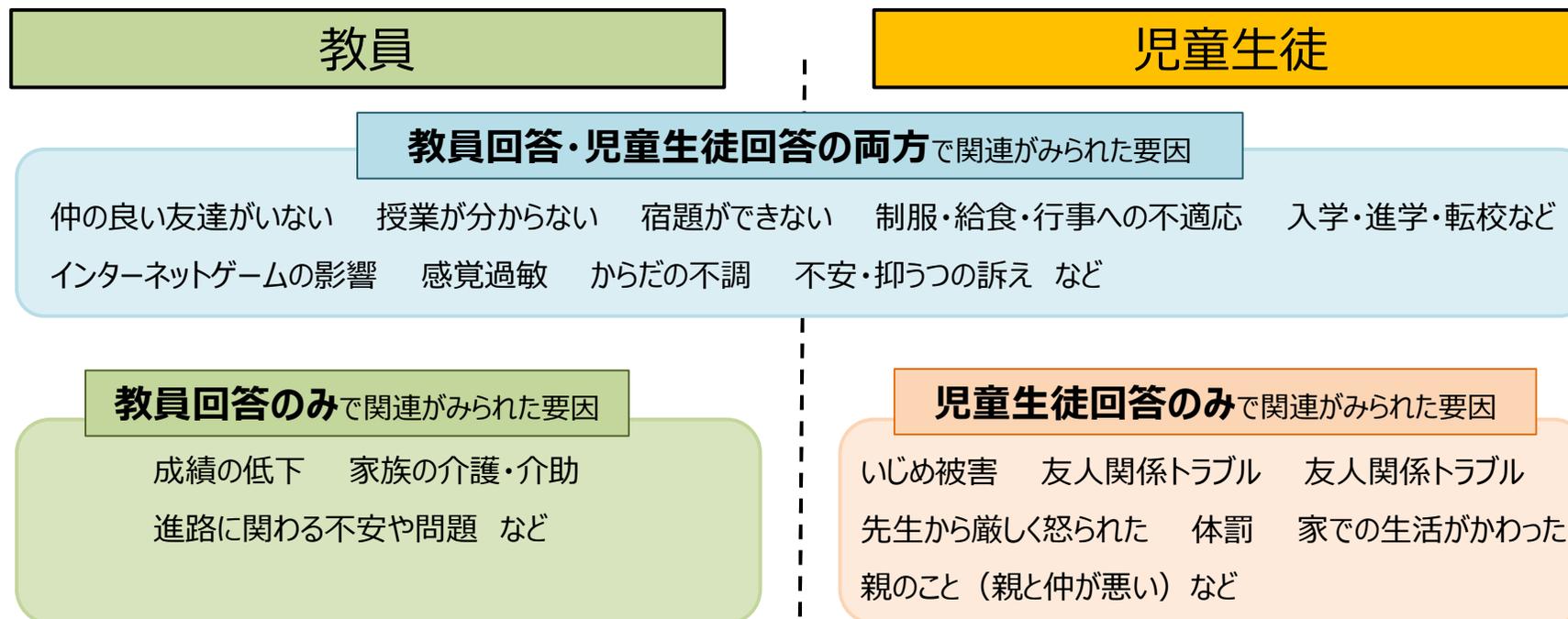
きっかけ要因 (辛かったこと)	いじめ、いじめを除く友人関係の問題、学業不振、ゲーム心身の不調、生活リズムの乱れなど、直接的な不登校のきっかけになりうるもの
背景要因	特別な教育への支援ニーズ、生涯、外国籍、家庭背景等（教師、保護者を対象）
保護因子(*)	授業・行事等への積極的な参加、勉強が得意、教職員との良好な関係、家庭内での良好な関係等、得意なこと、うまくいっていること

* 保護因子：困難な状況やストレスを乗り越える力。レジリエンス(回復力・復元力)を促す要因のこと

6 要因分析（教員・児童生徒）

教員と児童生徒の回答比較結果

不登校の要因について、教員回答からわかったことと、児童生徒回答からわかったことは以下のとおり

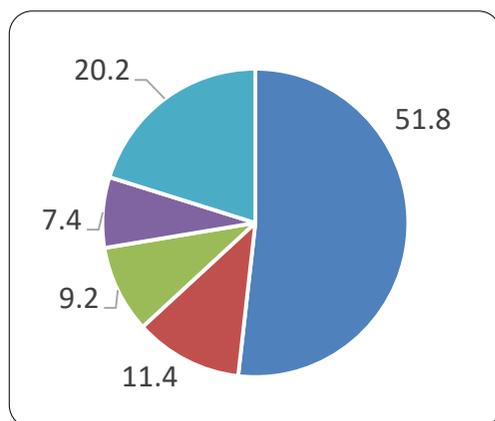


「いじめ被害」は、不登校のリスクを高めるものであるが、教師には見えにくい可能性がある

7 子どもたちが安心できる学びの場

安心できる多様な学びの場をつくること

令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（教員を対象）



主な要因	不登校児童生徒に占める割合
1 無気力・不安	51.8%
2 生活リズムの乱れ、あそび、非行	11.4%
3 いじめを除く友人関係をめぐる問題	9.2%
4 親子の関わり方	7.4%
5 上記以外	20.2%

「無気力・不安」の割合が高いという結果

文部科学省委託事業 不登校の要因分析に関する調査研究 報告書

Q 学校を休んでいるとき、どのようなことがあれば学校に戻りやすかったと思うか？

友だちからの声かけ……………36.8%

家族からの声かけ……………23.0%

個別に勉強を教えてもらえること（学校以外も含む）……22.6%

カウンセラー・スクールソーシャルワーカーと話す……………11.7%

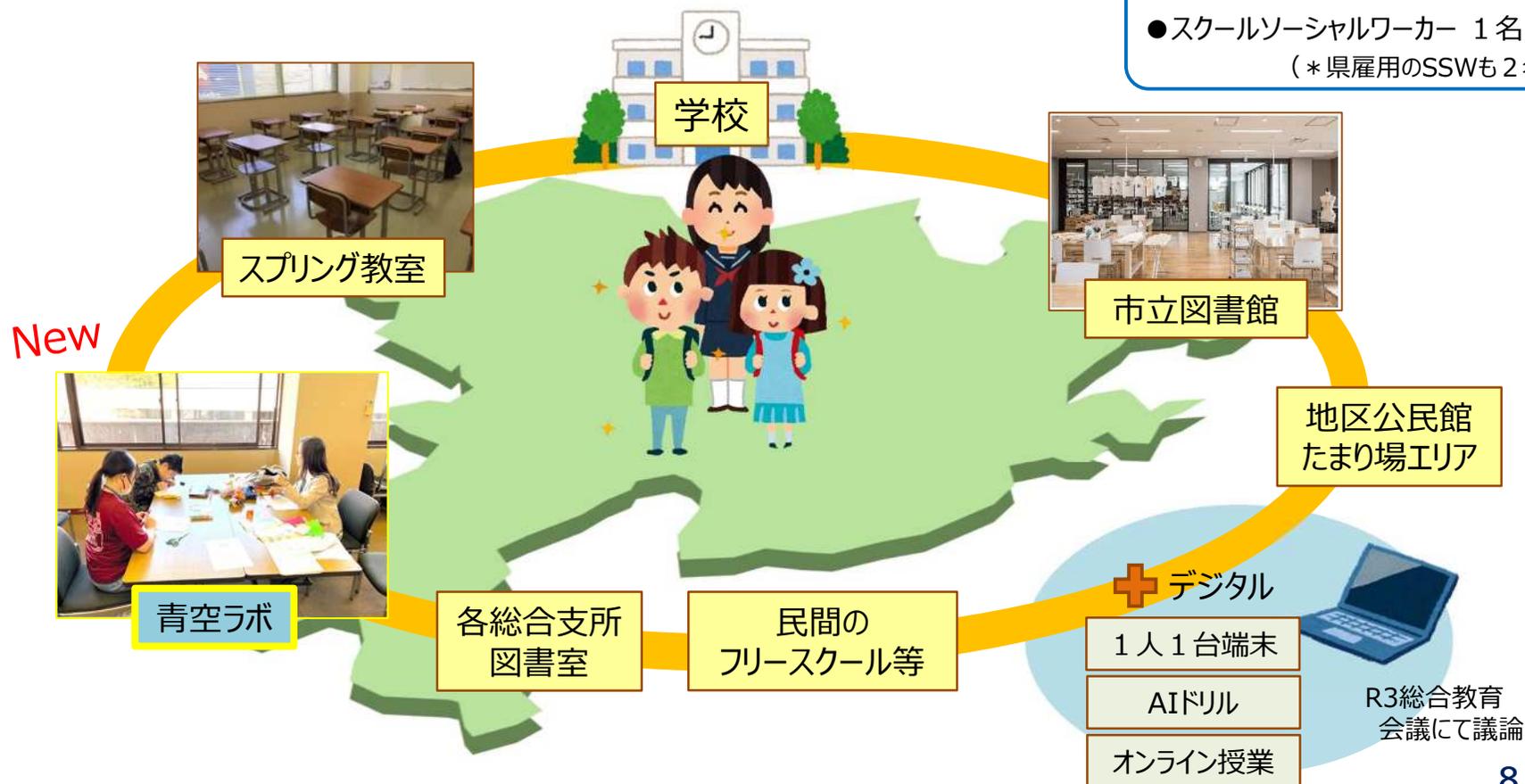
安心できる場所で
勉強ができるように

8 本市における多様な学びの場

「不登校支援を含む多様な学びの場」とは

● 児童生徒の居場所として、多様な学びの場を創出

- スプリング教室 1名
- 教育相談員 8名
- スクールソーシャルワーカー 1名
(* 県雇用のSSWも2名)



9 「多様な学びの場」それぞれの特徴

スプリング教室・市立図書館・青空ラボそれぞれの特徴

スプリング教室

学校への適応を目指した支援

週5日（月～金）9：30～15：30

スタッフ：教育相談員

主な活動：自主学習・フィールドワーク

【概要】

平成5年4月開設

教育相談員（退職校長）を6名配置

自主学習サポートや進路相談等を実施

市立図書館・公民館

児童生徒の主体性を尊重

毎週木曜日 9：00～11：00

スタッフ：教育相談員派遣 要相談

主な活動：読書・体験学習

【概要】

令和3年9月から 体験学習が可能

・シルクスクリーン・ボードゲーム

・プログラミング・レコード鑑賞等

青空ラボ

児童生徒の実態に合わせた支援

週3日（月水金）9：30～11：30

スタッフ：教育相談員・学生ボランティア

主な活動：学習（運動・体験・自学）

【概要】

令和6年4月開設

教育相談員を派遣 学生ボランティア、

サポート教員等 大学との協働

コツコツ一人で学習したい
 学校スタイルで生活したい
 生活リズムを整えたい
 進路等のアドバイスがほしい



学校とは違う雰囲気
 プレッシャーが少ない
 美術やプログラミング等の専門
 的な職員から支援を受けられる

年齢の近い学生による支援で
 社会性や活動意欲向上
 児童生徒の「やりたい」を
 大切にしたい学び

10 児童生徒にとって最適な居場所へ

「多様な居場所」への手続きの流れ



1 相談・面談

- 学校と保護者で、必要な支援内容について確認
- 面談により、児童生徒の実態やニーズを確認



2 体験・申込

- スプリング教室や青空ラボ等を体験
- 学びの場を選定。学校が「適応指導教室通級申込書」作成

3 支援計画

- 体験後、通級を開始。
- 学校は、当該児童生徒の学びの支援計画を作成



11 取組の推進（青空ラボ）

全国初の試み 南九州大学との協働による支援

『青空』 一人一人がそれぞれに合った様々な場所で輝けるように

『ラボ』 自分の興味・関心があることを、自分らしく学ぶ

青空ラボ：学生ボランティアの中心メンバーが命名

主な活動内容

- コミュニケーション能力の育成
カードゲーム等を使った交流活動
- 児童生徒の特技を生かした活動
イラスト作成、工作、ピアノ演奏等
- 体育館での運動・自主学習
- 農作業体験
施設内の畑で畝づくり、野菜の苗植え
- 相談体制
教育相談員・スクールソーシャルワーカー



12 取組の推進（デジタル技術の活用）

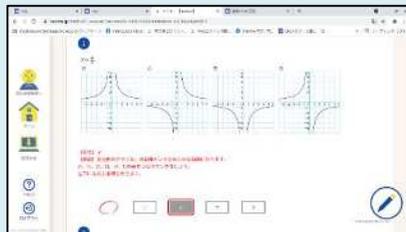
1人1台端末活用による、個別最適な学びの推進と不登校支援

- 1人1台端末による「学び」と「支援」の実践例と今後の可能性

AIドリル（Qubena）

- 苦手科目も遡って学習可能
- 習熟度に合わせAIが出題

導入済



オンライン学習

- 学校とスプリング教室をつなぐ
- 学校と自宅をつなぐことも可能

実践



小さなSOSの可視化

- COCOLOプランにも明記
- 児童生徒の日々の健康観察等に活用可能性有

今後の可能性

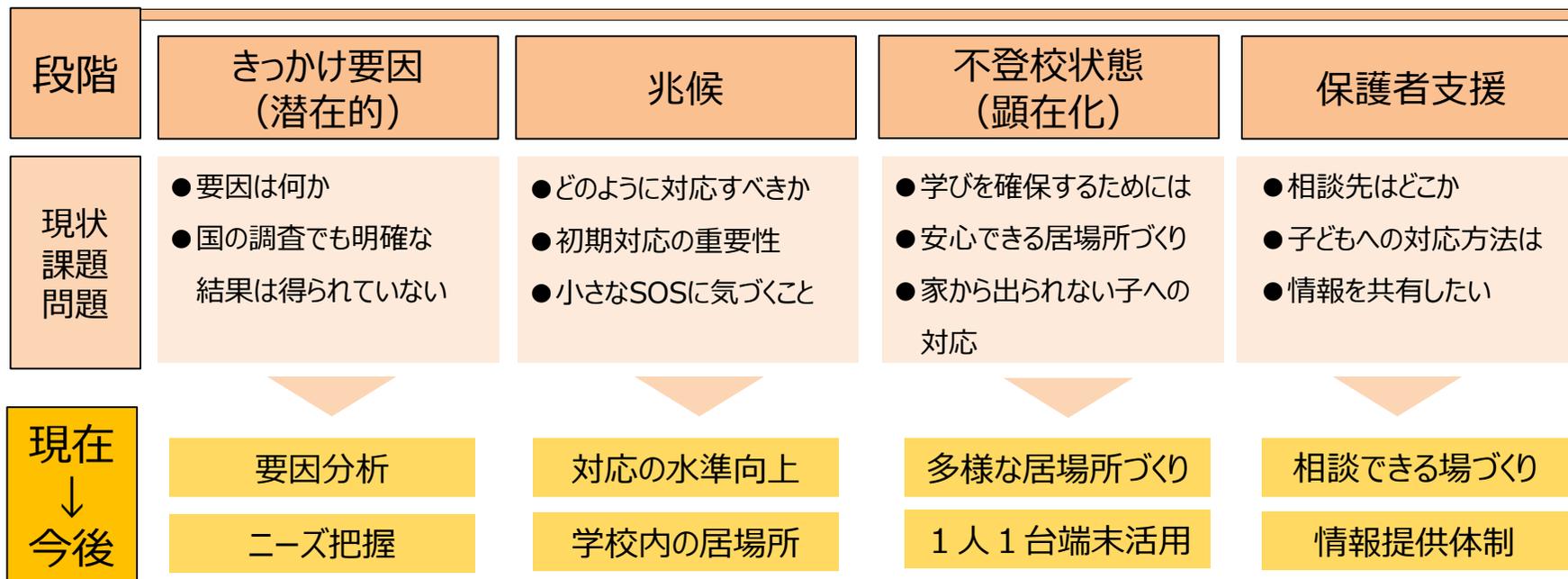
心や体調の変化の
早期発見を推進



「チーム学校」による
早期支援を推進

13 今後の不登校対策の方向性

不登校支援における今後の方向性



COCOLOプラン 令和5年3月31日 文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」

- 1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。
- 2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。
- 3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします



幸せ上々、みやこのじょう

日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統

都城市 教育委員会
教育総務課 学校教育課